

【ヒヤリ・ハット事例集】

令和2年3月に実施しました「産業廃棄物処理におけるヒヤリ・ハット事例」の調査結果をとりまとめたものです。ご協力に感謝申し上げますとともに、今後の業務の参考にしていただきますようお願いいたします。

業の種類	作業名	発生状況	発生原因	再発防止対策	
		(何がどうした)	(なぜ)	(どうした)	
1	収集運搬	運転	片側一車線道路を走行中。	コンビニの前（国道）に駐停車している2t車を追い越す時に、2t車の陰から急に飛び出してきた人に驚いて急ブレーキを踏んだ。	飛び出してくることを前提に、徐行運転に徹して周囲の状況を確認する。
2	収集運搬	積込	解体廃材の手積み作業中に釘に引っ掛かり手を負傷した。	手袋はしていたが、年数が経ち薄くなっていた。また、作業を急いでいたため廃材に気を付けていなかった。	手袋の状態に気を配り、損傷のしやすい綿手袋は使用しない。何事にも落ち着いて作業にあたる。
3	収集運搬	運転	コンクリート殻を4tダンプで2車線道路を運転中、覆っていたシートが一部めくれ、横の車に触れそうになった。	シートの前側4点のみ固定し、側面を固定していなかったため、横風の影響を受けた。	シートの固定は、前後左右を固定する。
4	土木	型枠組立	足場上での型枠組立時に使用していたハンマーが落下した。	手が滑り落下した。	使用する器具には、落下防止のコードを取り付け、落下対策を行った。
5	場内資材移動	玉掛け	足場板の移動時、後方確認をしておらず、転倒した。	周囲確認不足及び気のゆるみ。	作業前に状態の確認を行い、周囲、足元の片づけをして作業にあたる。
6	場内土砂運搬	運転	4tダンプにて、土砂の運搬時に大きな石が車底に引っ掛かりヒヤリとした。	大きな石は、ユンボで片づけてあると思い込み、前方確認を怠った。	作業員自身でバックホウなどで石の片づけを行った。その後、整地まで行き、再発防止に努めた。

業の種類	作業名	発生状況	発生原因	再発防止対策	
		(何がどうした)	(なぜ)	(どうした)	
7	廃材積込	玉掛け	4 t ユニックに、鉄の廃材を積む際、ワイヤーの長さが誤っており、積荷が傾いた。	ワイヤーの長さの確認不足。	同じ長さのワイヤーに目印をしてから作業するようにした。
8	掘削	床堀	他者の運転するバックホウと自身のバックホウが接触しかけた。	重機の距離が近かった。また、相手の動きを理解できていなかった。	旋回方向を真反対にして絶対に接触しないようにした。
9	土木	掘削作業中	作業員が、周囲の確認をせず、バックホウの作業旋回内に立ち入ったの接触事故。	バックホウのオペレーター及び作業員の周囲確認不足。	朝のKY活動で注意を促す、又現場内に安全看板等の設置をした。
10	土木	大型土嚢工事	大型土嚢を吊り上げる際に、作業員が吊荷の真下に立入、落下事故。	作業員が上部または周囲の確認がなく、オペレーターも吊荷の下を確認しなかった。	作業員は吊荷の下には立ち入らないよう注意喚起をするとともに、オペレーターも吊荷を降ろす前に確認を実施するようにした。
11	仮設工	足場組立	高さ 2 m 以上の場所で作業中、安全帯の着用をせず、作業員が足を滑らせての転落事故。	安全帯の着用をしておらず、また、作業員が足元に十分な注意を払っていなかった。	安全帯の着用を作業員同士でチェックしあい、整備が必要な安全帯は整備が完了してから使用をすることの徹底。
12	収集運搬	DT 運転	対面通行の一般道路を運転中、左カーブで対向車と接触事故を起こしそうになった。	ダンプトラックのスピードの出し過ぎ。	運転中の速度出し過ぎに十分注意し、周囲の安全を目視し、対向車の動きに十分注意し安全運転に心がける。
13	中間処理	重機操作	立って操作をしていたオペレーターが座った際、操作レバーに防寒着が引っ掛かり、突然バックホウのアームが回転した。	安全確認不足と危険予知の確認が欠如していた。	基本操作の頂点に立ち返り、確実に座ってバックホウの操作を行うとともに、作業前に必ず危険予知を行う。
14	収集運搬	DT 運転	現場出入口で、場内から出てきたダンプが交通誘導員の指示だけに頼って中型自動二輪車と接触寸前だった。	ダンプトラックと交通誘導員の出るときのタイミングと目視による安全確認不足。	運転中は出入り口で交通誘導員の指示と併せて、運転手自身の目視による安全確認を必ず行い運転操作をする。

	業の種類	作業名	発生状況	発生原因	再発防止対策
			(何がどうした)	(なぜ)	(どうした)
15	土木工事	クレーン作業	アウトリガーの張り出し中にユニック車が転倒しそうになった。	アウトリガーの張り出しのレバー操作を片側しか行っていなかった。	アウトリガーの張り出し前に指差し呼称を行い、両方ともに張り出されているか確認をしながら行う。
16	土木工事	ダンプ運転中	ダンプトラックで後退中にバックホウと接触しそうになった。	誘導員が不在で、1人で後退したため。	誘導員を配置し、誘導の合図を遵守して後退するようにした。
17	土木工事	梯子での作業時	木製の梯子に登り作業を行っていたら、折れて転倒しそうになった。	梯子の点検を怠った。	木製の梯子ではなく、アルミ製の梯子を使用するようにした。
18	土工	盛土	2台のバックホウが作業中、バックホウ同士が衝突した。	バックホウ同士の作業間隔が近かった。また、各バックホウ運転手の周囲確認不足。	併用作業時、重機同士の作業間隔を広げる。また、周囲確認の徹底や他の重機の作業範囲に近づかないようにした。
19	型枠工	型枠組立	砂防現場にて、ダムホーム使用の型枠組立時、足場の隙間から転落した。	ダムホームの足場に道板が途中まで敷いてあったが、一部敷いていない部分があり、その部分から転落した。	ダムホームの足場上に道板を隙間なく全面に敷き、昇降及び移動時には周囲、足元の確認を徹底した。
20	最終処分	重機作業	バックホウで1m程の小段を超えるときに転倒しそうになった。	ブームを上にあげたまま移動したため。	移動中はブームを下げる。
21	最終処分	重機作業	タイヤショベルで敷均し作業中、横転しそうになった。	路肩によりすぎたため。	作業中こまめに路肩の転圧を行う。
22	最終処分	水中ポンプ交換	水中ポンプ引揚の際、腰を痛めそうになった。	姿勢が悪かったほか、水位が低く浮力を生かせなかった。	姿勢に留意して作業チェーンブロックを使用する。水位を高くして浮力を生かす。
23	中間処理	清掃	8㎡の箱内を清掃しようとして箱に上がろうとしたら足が滑り転倒しそうになった。	急いでいて足元の確認をしなかった。	箱に上るときは、手元足元を確認し3点支持で行う。
24	収集運搬	運転	3号線の右レーンを走行中左側車線の車が急に前に割り込んできてびっくりした。	前方ばかり見ている、隣の車線の確認を怠った。	走行中は前方ばかりではなく、後方の確認もミラーで行う。

業の種類	作業名	発生状況	発生原因	再発防止対策	
		(何がどうした)	(なぜ)	(どうした)	
25	中間処理	積込	タイヤショベルで2 t DTにRCを積み込もうとしたら急に2 t DTがバックしバケットが2 t DTにあたりそうになった。	2 t DTの運転手がバックギアに入れたままで停車して誤ってクラッチを離してしまった。	近寄るときには必ず合図を行い確認後作業をする。
26	中間処理	場内整理	ガラ置場でコンクリート殻を片付け中、他の作業員が近づいてきて重機と接触しそうになった。	最初はだれもいなかったの周囲の確認をしなかった。	重機を運転するときは周囲の確認をする。また作業範囲に立入禁止の表示を行う。
27	積替え保管	運転	雨の日にフォークリフトから降りようとしたら雨合羽が操作レバーに引っ掛かり、転倒しそうになった。	降りるときレバーをよく見ていなかった。	降りるときは必ずレバーなどの周りを確認してから降りる。
28	収集運搬	浄化槽清掃作業	浄化槽清掃で使用する水道ホースが路上に転落	積込前の確認が甘かった。転落防止のゴム紐の設置が無かった。	転落前の確認を徹底する。ゴム紐などで固定し転落を防止する。
29	収集運搬	運転	信号機のない住宅街の四つ角を走行中、左側から急に車が飛び出してきて衝突しそうになった。	相手方の確認不足。当方は徐行運転していたため、停車でき、衝突は免れた。	見通しのきかないところでは、最徐行と一旦停止を必ず守ることを徹底した。
30	収集運搬	積込	ダンプにコンクリート殻を積込中、運転手がニュートラルにしたまま車から離れていたためサイドブレーキが効いていたものの車が少し前に動いた。	ダンプの運転手の注意不足。	運転手が車から離れるときは、ギアを入れた上でサイドブレーキまで引き、歯止めまでするように指導した。
31	収集運搬	積込	ドラム缶に廃棄物を入れてユニック車に積込む際、車に当たった。	ユニック車のオペレーターに玉掛け者の合図が見えなかったこと。見込みで積込を行ったこと。	オペレーターに玉掛けが見える位置で合図をするようにすること。見込み運転は絶対に行わないこと。

業の種類	作業名	発生状況	発生原因	再発防止対策	
		(何がどうした)	(なぜ)	(どうした)	
32	収集運搬	運転	一般道を走行中、前車の車両の荷台から飛散物があり、接触しそうになった。	荷台に飛散防止措置を講じていなかった。	車間距離を十分に確保していたため、接触することはなかったが、今後も車間距離を確保しつつ、法定速度を遵守し安全運転をする。また、運転の際、荷台に飛散防止措置を講じる。
33	収集運搬	積込	建屋解体で発生した鉄骨を積み込んだ際、ユニック車から外したフックが他の鋼材に引っかかり、持ち上げた。	外したフックが、他の鋼材と絡み合うとは思わず作業した。	フックを巻き上げる際には、目視で確認する。また、同様に玉掛け者に対し状況の確認を指示する。
34	収集運搬	運搬	現場内の鉄板敷きの仮設道路上を走行中、カーブ部分でスリップし作業員と接触しそうになった。	カーブ部分に濡れた土砂があり、直前にブレーキを掛けたため。	鉄板上は、極力徐行運転に努める。発生事象の周知に努め、情報提供して潜在危険を摘み取る。
35	収集運搬	運搬	分別作業場を通過中、TSがバックしてきて接触しそうになった。	TSオペレーターの後方不確認と周辺にいるオペレーターへの周知不足。	分別場手前で停車し、周辺の作業員が確認後、通過する。
36	収集運搬	集荷中	道路片側に停車し、揚荷作業中、荷台上で荷が落下し通過車両に当たる所だった。	産廃が流れ積荷状態で入っていたため、滑って落下した。	揚荷作業前に荷の状態を把握し、落下しないように積みなおす。
37	収集運搬	荷降ろし中	フォークリフトで荷降ろし作業中、箱が傾き転倒しそうになった。	産廃箱をフォークリフトで揚荷する際に、地切りを行わなかった。	荷の状態を確認し、箱の中心部にフォークを設置し、必ず地切りをして荷の安定を確認する。
38	収集運搬	運搬	早朝運転中、高速で割込みをされ、接触事故を起こすところだった。	早朝は、速度超過や割込みをする車両が多い。	朝方は他車が速度超過や割込み、携帯電話の使用など多いので、前方は勿論のこと、後方等も確認してから運転する。